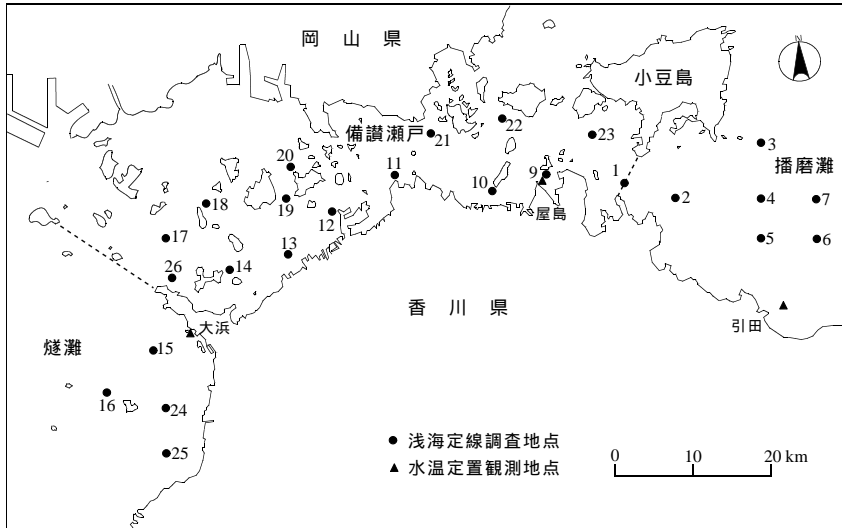


香川県漁海況速報 平成18年 8月 (H18-5号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成18年8月1日 (播磨灘) 2日 (備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「やや低めから平年並み」、塩分は「著しく低めから平年並み」、透明度は「やや低めから平年並み」、溶存酸素は「やや低めから平年並み」であった。
 平年偏差 = 平均値 - 平年値

		水温 ()			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素(ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	25.6	23.6	21.9	30.1	30.8	31.4	6.7	4.72	3.56
	平年値	25.5	24.2	22.3	31.5	31.6	31.9	7.9	4.99	3.25
	平年偏差	0.1	-0.6	-0.4	-1.4	-0.9	-0.5	-1.2	-0.27	0.31
	状況	平年並み	やや低め	平年並み	著しく低め	かなり低め	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み
備讃瀬戸	14地点平均値	24.8	24.2	23.7	30.6	30.8	31.0	5.4	4.27	3.87
	平年値	25.2	24.6	24.3	31.6	31.6	31.7	4.8	4.42	4.10
	平年偏差	-0.5	-0.5	-0.7	-0.9	-0.8	-0.7	0.6	-0.15	-0.23
	状況	平年並み	平年並み	やや低め	かなり低め	かなり低め	やや低め	平年並み	平年並み	やや低め
燧灘	4地点平均値	28.5	23.6	20.8	30.6	31.5	32.2	8.5	4.63	2.83
	平年値	27.5	23.8	21.7	31.7	32.0	32.3	10.1	5.01	3.17
	平年偏差	1.0	-0.3	-1.0	-1.1	-0.6	0.0	-1.6	-0.38	-0.34
	状況	平年並み	平年並み	やや低め	やや低め	やや低め	平年並み	やや低め	やや低め	平年並み

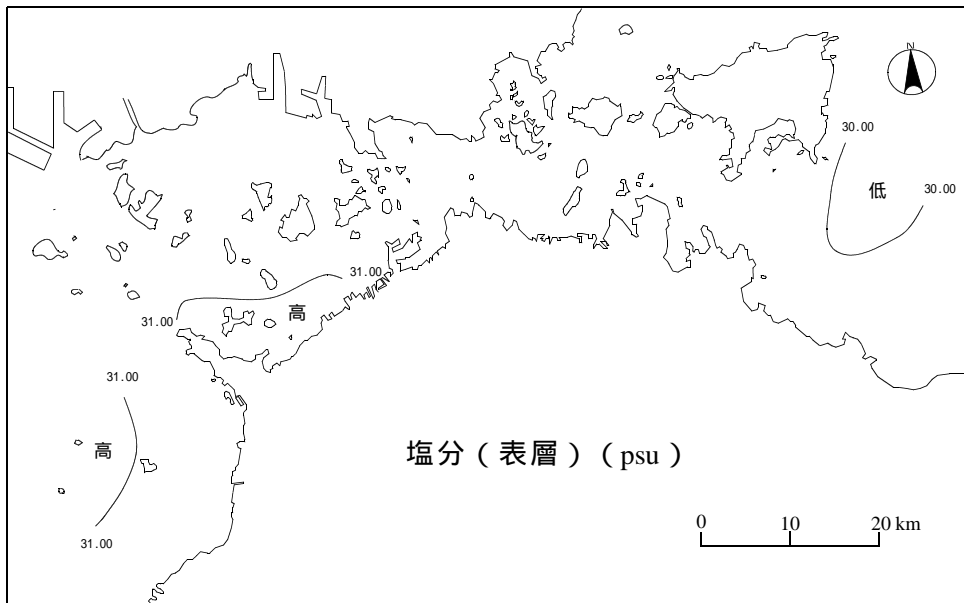
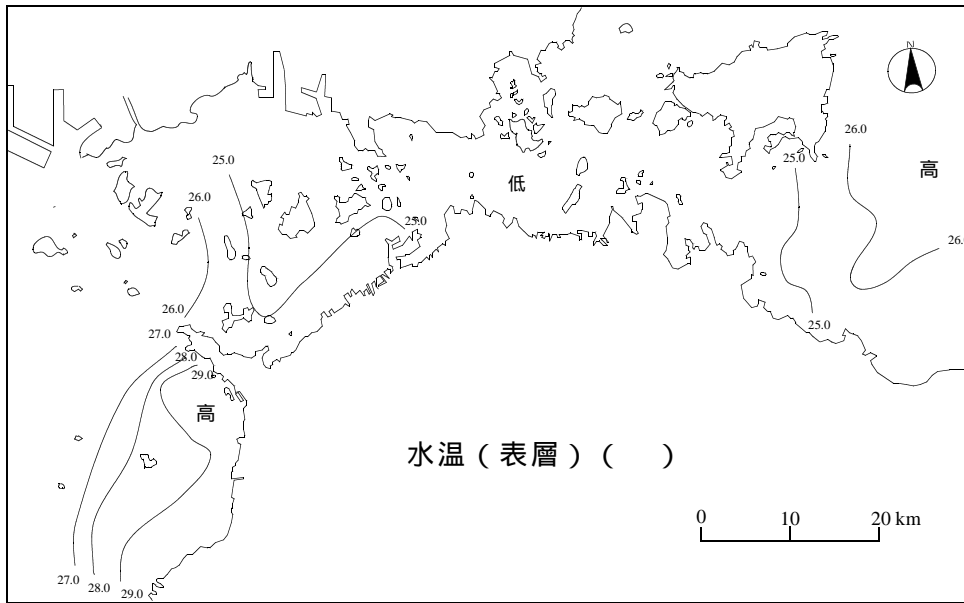
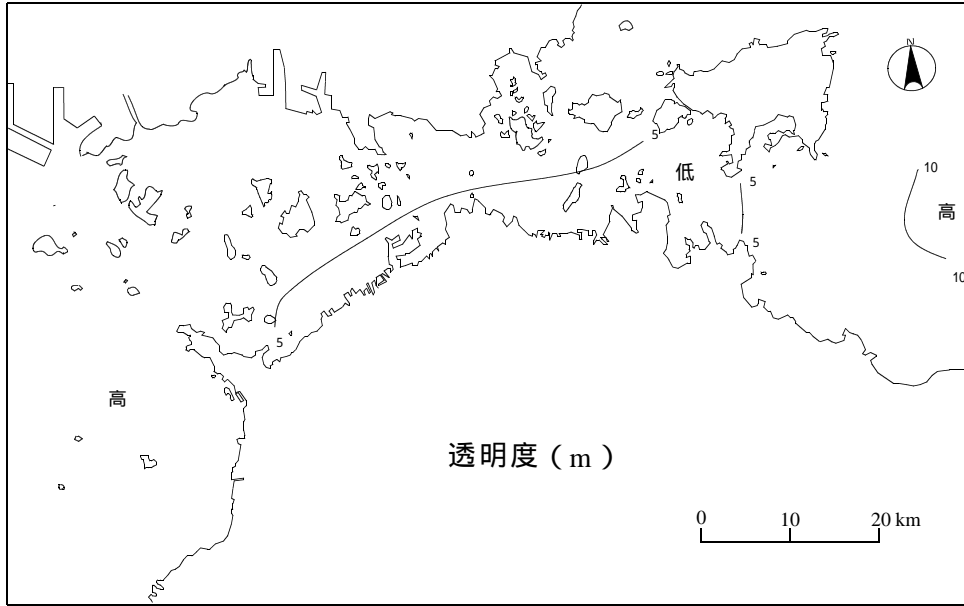
平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



3) 定量観測(水温)

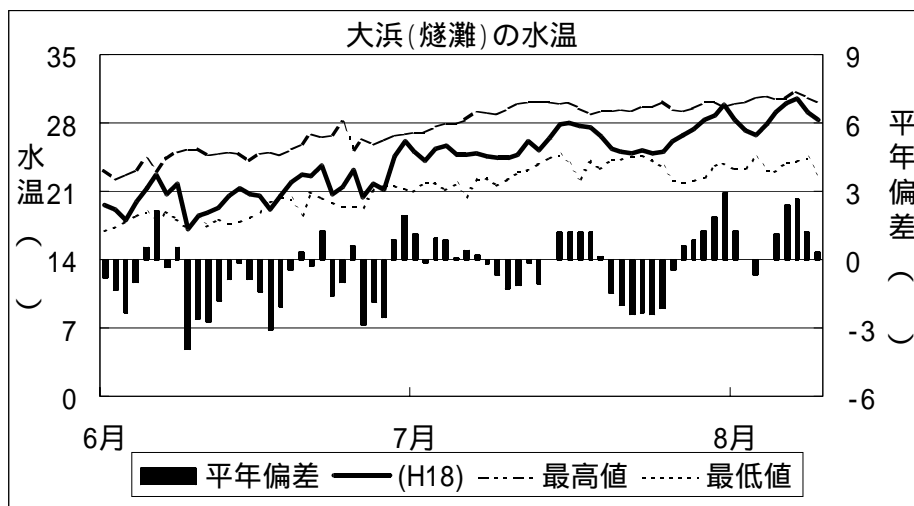
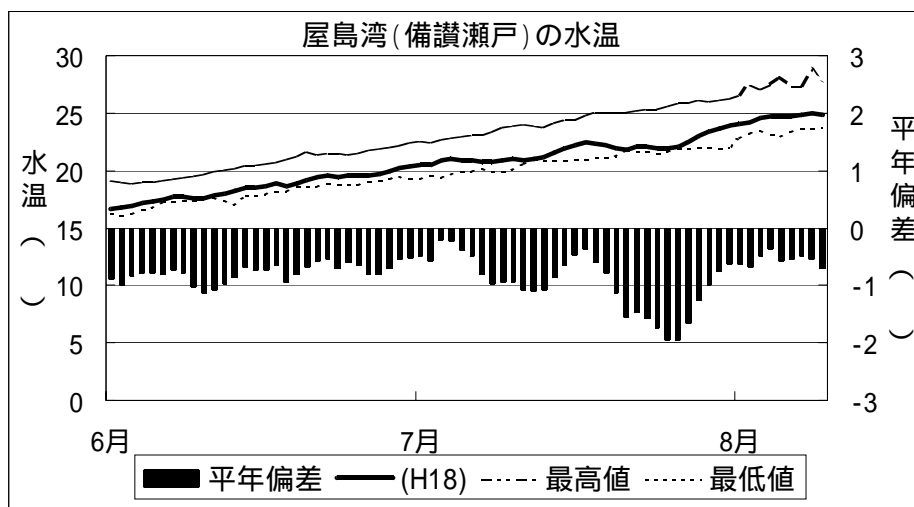
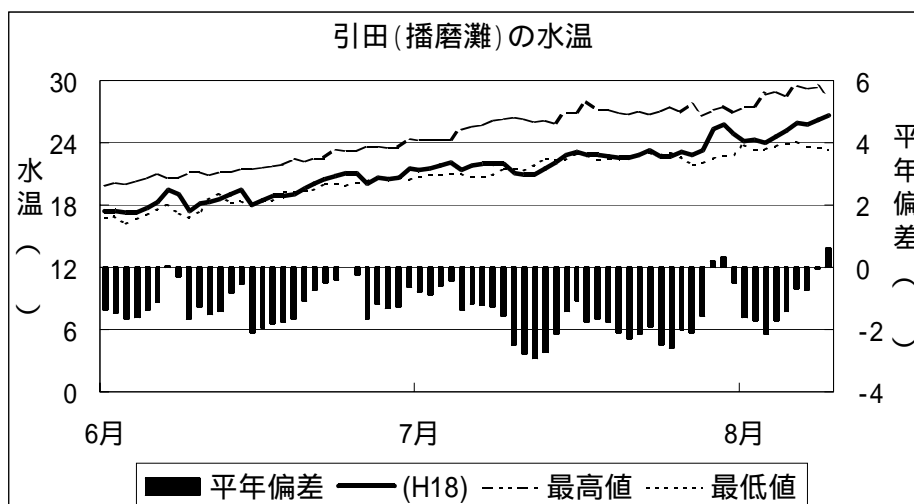
播磨灘(引田): 7月中旬以降平年偏差が-2 を下回る日が多かったが、7月末及び8月上旬には平年値を上回る日があった。

備讃瀬戸(屋島): 7月中旬以降平年偏差が次第に低下し、梅雨明け前には-2.0 近くまで下がったが、梅雨明け以後は-1 未満で推移している。

燧灘(大浜): 7月は平年値を上回る期間、下回る期間が交互に現れたが、梅雨明け以降ほぼ連日平年値を上回っている。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成17(2005)年

屋島: 昭和50(1975)~平成17(2005)年



4) 赤潮

播磨灘：発生なし。

備讃瀬戸：発生なし。

燧灘：発生なし。

(いずれも7月14日～8月9日の間)

5) 卵稚仔

調査日：平成18年8月1日(播磨灘) 2日(備讃瀬戸、燧灘)

出現量

個(尾) / 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	8.38	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	3.38	4.00
備讃瀬戸平均	2.93	1.53	0.00	0.00	0.00	0.00	10.40	7.27
燧灘平均	49.57	14.71	0.00	0.00	0.00	0.00	35.43	10.43
総平均	15.27	4.33	0.00	0.00	0.00	0.00	14.37	7.13

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	53.1%	6.1%	-	-
備讃瀬戸平均	257.0%	157.7%	-	0.0%
燧灘平均	225.6%	221.2%	-	-
総平均	74.7%	46.8%	-	-

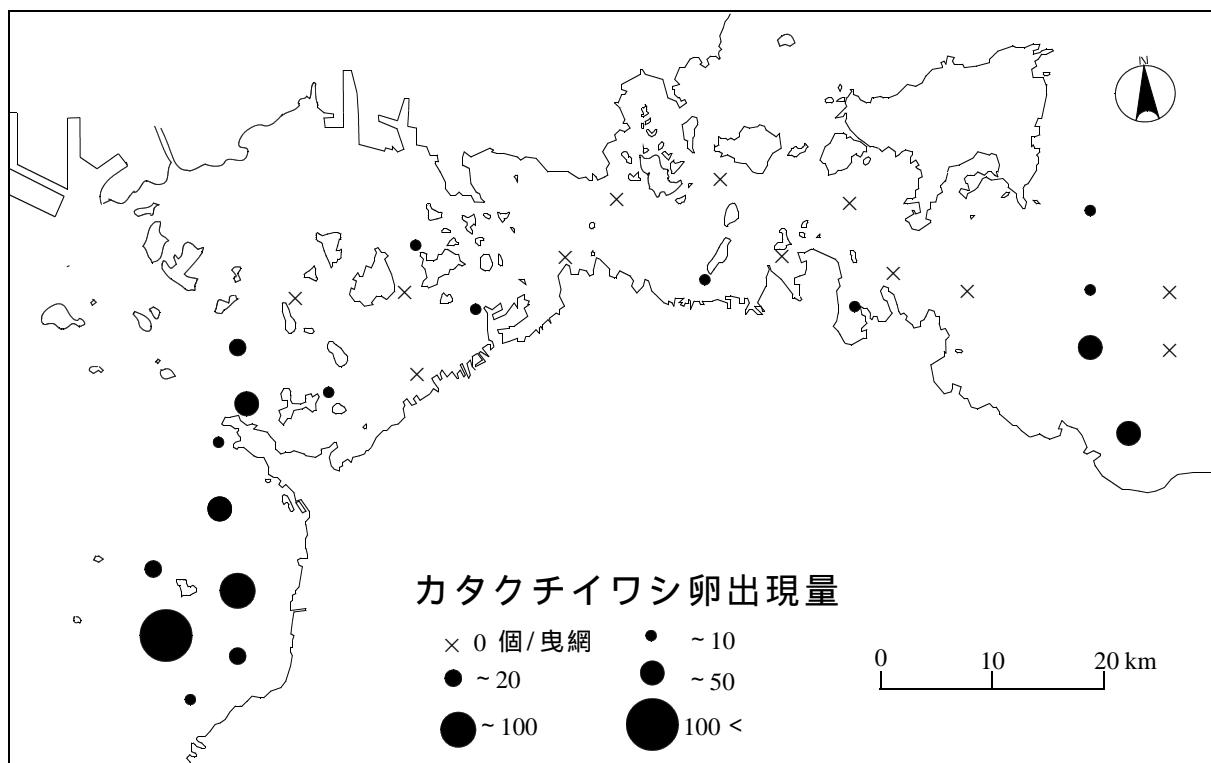
- : 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55(1980)～平成17(2005)年度

マイワシ：平成5(1993)～平成17(2005)年度

各調査点でカタクチイワシ卵の出現は、次のとおりである。



2. 漁況

7月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	底びき網では主に小型エビ類、テナガダコ等が漁獲されているが、クラゲが多く全般的に低調である。大型定置網は全般的に低調であるが、8月に入ってもサゴシが一日数十尾漁獲されている。東讃のシラス船曳網の7月の漁獲量は著しく低調だった6月の約10倍となったが、平年(89-04)の30%程度で低調な漁模様であった。
備 讃 瀬 戸	底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、アナゴ、小型エビ類、マダコ、テナガダコ、ガザミが漁獲されている。マナガツオ流し刺網は前年と比べると漁獲はやや多い模様である。高松・庵治沖のイカナゴ込し網は7月上旬まで操業が行なわれ、好調であった前年の約2倍の漁獲量があり、内訳をみるとフルセが前年の約16倍、シンコが1.2倍とフルセの漁獲増が著しい。
燧 灘	底びき網では主にメイタガレイ、マコガレイ、シロギス、小型エビ類、オニオコゼ、ガザミが漁獲されている。桁網ではハネ、アジ、タチウオが漁獲されている。イワシ機船船びき網の7月までの漁獲量はほぼ前年、平年並であったが、生産金額は前年の約60%、平年の90%であった。7月はチリメン、カエリ主体で漁獲が行なわれた。